

福島県PTA連合会会報
第36号_H05.11.20

大会主題

「心豊かなたくましい子供の育成を 目指すPTA活動を推進しよう」



福島市黒岩字田部屋53-5 内会館
福島県青少年会館
福島県PTA連合会
電話 (0245) 45-5982
発行人 芳賀裕
印刷 泉孔印刷所
電話 57-1071

実践成果を持ち寄り 熱心に研究協議

第42回福島県PTA原町大会終了

「心豊かなたくましい子供の育成を目指すPTA活動を推進しよう」を大会の主題に掲げ、県下二千百余名の会員参加のもと、一千有余年の歴史と伝統を誇る、ここ「相馬野馬追」の里、原町市において第四十二回福島県PTA研究大会原町大会が十月十五日十六日の両日にわたり盛大に開催された。

第一日は、分科会ごとに受け付け後、午後直ちに六つの分科会に分かれ熱心な研究協議が行われた。

二日目は、芳賀裕PTA会長より、「この大会で

研修されたことをそれぞれの家庭、各単Pで会議の活動の糧にするにとともに、県内各地で一層活発なPTA活動が展開することを祈念します。」との挨拶があり、続いて長年にわたるPTAへの功労者・団体に感謝状・表彰状の贈呈が行われた。記念講演は、元横綱千代の富士・九重親方が「心・体・不撓不屈の土俵人生にかけける夢」と題し感銘深い話をされた。(内容は、四ページに掲載)最後に次年度開催地の須賀川市連P会長の挨拶で、二日間の研究大会の幕を閉じた。

輝く受賞者

平成五年度県連P会長より感謝状、表彰状を受賞された方々のご芳名

《感謝状》

「県連P会長副会長」

前 会長 櫻井和明

前副会長 椿 薫

「県P前監事」

遠藤貞治 壺井孝一

加藤正典

「県連P前理事」

渡邊信一 安田武吉

我妻武男 関根 貢

小白井玲子 小澤 誠

後藤喜美夫 伊藤靖也

佐久間正行 山田猛夫

「各地区前事務局長」

近藤博之 関根岳夫

土田 隆 柳沼正美

《表彰状》

福島市立鎌田小PTA

同 下川崎小PTA

同 庭塚小PTA

同 茂庭小PTA

同 蓬萊東小PTA

同 福大附属養護学校PTA

川俣町立川俣南小PTA

保原町立柱沢小PTA

霊山町立石田小PTA

安達町立上川崎小PTA

東和町立北戸沢小PTA

二本松市立大平小PTA

二本松市立杉田小PTA

大玉村立大山小PTA

白沢村立白沢中PTA

岩代町立旭中PTA

二本松市立第二中PTA

郡山市立桃見台小PTA

同 第四中PTA

同 湖南中PTA

同 栃山神小PTA

同 高野小PTA

同 富田中PTA

同 須賀川市立第三中PTA

同 玉川村立玉川一小PTA

同 古殿町立古殿中PTA

同 船引町立門沢小PTA

同 白河市立白河三小PTA

同 泉崎村立泉崎中PTA

荒木孝男 菅野邦雄
平野武男 伊藤正博
古川憲男 古川保夫
山口一成 濱須義昌
宇佐見忠良



若松市立鶴城小PTA
県立会津養護学校PTA
河東町立第二小PTA
柳津町立柳津小PTA
金山町立本名小PTA
いわき市立小名浜東小PTA
同 川部小PTA
浪江町立請戸小PTA
葛尾村立葛尾小PTA
小高町立福浦小PTA
相馬市立中村一中PTA
ほか個人一〇一名

北海道南西沖地震義
援金をお寄せいた
いた学校・PTA

(九月二十九日現在)
合計金額二、五七六、二三元

○福島市PTA連合会
同補導委員会○同蓬萊東
小PTA○同清明小児童
会○郡山市PTA連合会
○同大島小PTA○須賀
川市立三中PTA○同西
袋中PTA○同小塩江小
PTA○達南PTA連合
会○喜多方市立一中PT
A○岩瀬村立白方小○長
沼町立長沼小○天栄村立
牧本小○同羽鳥小PTA
○同広戸小PTA○県立
清陵情報高○県立須賀川
養護学校PTA。以上ご
協力誠にありがとうございます。

第一分科会

「会員の意識改革とPTA活動の活性化」

提言

南郷二小 五十嵐公隆
マンネリ化脱皮のため各活動の統廃合など個々の活動内容の改善に努めつつ、地域の人々との協力体制を堅持し、地域に根ざしたPTA活動の推進と活動の活性化を図る組織運営について。

矢祭中 戸井田宇多夫
会合時間の変更や各専門部の自主性、創造性を重視した活動により、会員の参加意識を高める組織運営の工夫について。

川内二小
遠藤雄幸
児童数会
員数の減少、
価値観の多
様等社会の
変化に対応
したPTAの
組織づく
りと今後の
体制につい
て。

分科会報告

提言に続



き、各校の現情について活発な発言が多数あり、最後に助言がなされた。

社会教育主事 只野 先生
PTA活動の目当てをしつかりと捉え、各専門部が自主的に本来の活動をし、地域、学校との連携を深めて、「子どもを守るPTAから子どもを育てるPTA」を目指して活動してほしい。

中村二中 武田 校長
目的意識、貢献意識を持ち、学習会等口コミによる仲間づくりを通じ、集まるPTA、見届けの活動を今後とも進めよう。

第二分科会

「生涯学習とPTA研修のあり方を考えよう」

提言一

大木戸小より
学校週五日制の実施により、PTA活動も今まではちがった在り方を求められている。具体例として、授業参観後の懇談会、PTAだよりへの学校教育の情報掲載、親子旅行等の学年委員会活動等があげられた。学校と家庭の連携を取りながら親と子が共に成長しようとする努力している。

提言二 穂積小では、大きく変化しつつある社会の中で21世紀に向けての子供たちの教育のあり方を考えている。教育講演会、親睦旅行等を通じて、各研修活動への積極的参加をよびかけている。特に家庭での良き指導者パートナーとしての父親の参加を期待している。

提言三 喜多方二中では、子供たちを取り巻く状況が大きく変っている今こそが、家庭・学校・地域の三者一体となつての協力体制が最も大切である



あると考えている。地区懇談会・教養講演会・会報の発行等の活動を行っている。親自身もこのような生涯学習に参加していくなかで、子供達の教育にかかわり合っていきたいと考えている。

最後に、助言者の先生方から、「生涯学習は、決してむずかしいものではなくすべてのものが対象となる。家庭・学校・地域の三者連携の中核としてのPTA活動が期待されている。

発想の転換により、あらゆる機会をとらえて生涯学習を考えよう。」というアドバイスがあった。

第三分科会

「家庭教育の重要性を理解し、家庭の教育力の高揚に努めよう」

提言一

大玉村大山小
学校では、家庭教育が果たす役割を再認識し、学校週五日制の受け皿は家庭からという考えである。

提言二 須賀川市第二小学校では、育成会活動の実施にあたり、地域の人達にその意義や内容を知らせ推進してきた。

提言三 会津高田町第二中学校では、地域や家庭での余暇の時間を自ら計画的に過ごせるようになりつつあることだつた。
質疑の中では、週末に作業が忙しくなると親子での行事への参加が難しいことに対して、あくまでも基本は家庭にあるので、家事を子供が手伝ったりするのも一方法であるということ。また、月二回の週五日制を実験的に実施している学校では、学習指導要領が改訂されなければ時数の上で苦しいし、反対に子供たちの



行事はなくなしたくないという意見が出された。

指導助言の先生からは基本的な生活習慣の育成の場として家庭があるということ、PTA活動は親の場でもあり、再度家庭教育の役割を考える必要があるということ、今の子供達は自ら工夫して遊べないことが多いので、親はあまり規制しないでいろいろな経験をさせてみるのも大切であることなどのご指導があった。

原町大会

第四分科会

「豊かな心とたくましい体をもつ子供を育てる体育文化活動を推進しよう」

「豊かな心とたくましい体をもつ子供を育てる体育文化活動を推進しよう」

伊深両先生より、豊かな心とたくましい子供を育てる為には、◎受皿となる地域環境作り、◎魅力あるプログラム作りが大切で、子供が主役である体育、文化活動を行う必要があり、親の義務として、将来子供達が大人になった時のことを考えた社会体育、文化活動をして欲しい。などの助言をいただいた。

然探偵団の組織活動、少年少女球技大会の実施についての発表がなされた。金上小からは、親子登山、相撲の指導、スキー教室の活動をスライドを使って発表し、中央台北小からは開校と共に歩んだ三年間のPTA体育文化活動の内容の発表がなされた。

その後、それぞれの提言について質疑応答があり、主として次のことについて話し合いが深められた。

一、スポーツ少年団活動における指導者及び親の勝負にこだわる風潮の問題をどうするか。

一、社会体育活動と学校体育活動を進めるにあ



第五分科会

「子供の健全育成を図る地域の環境浄化活動をすすめよう」

「飯野小より」広報活動を活発に行い、「PCA活動」を通し、子供、父兄、地域の連帯感、信頼感を高め、「心のふるさと」作りに努めている。

（玉川第一小より）現状をよく捉え、学校、家庭をよく捉え、学校、家庭地域社会の連携協力を密にし、事故や非行の予防対策指導に取り組む。

（北会津中より）各組織の活動の主旨が末端までとどき、健全育成に対し関心を持ち、理解を深め地域ぐるみで教育に取り組む。

以上の上の三つの発表がなされ、それぞれの提言について活発な質疑応答が行われた後、主として次のことについて話し合いが深められた。

① 幼小中高の連携のあり方について、白河五小の交通安全運動の実践や小野新町のスポ少柔道の活動、飯館の公民館主催のよる子供育成会の活動



第六分科会

「心身に障害をもつ子供の教育について理解を深め、協力するPTA活動を推進しよう」

「提言者の発表 福島小では、特殊学級の保護者は子供の協力学級に所属し、又、PTA新聞に特殊学級を理解してもらおう内容を紹介する活動をしている。

日新小では、PTAは学年行事、学校行事等の諸活動にかかわる会議には養護学級からも出席し、意思は疎通を図る活動をしている。

◎ 質疑内容

○ 学区外に通級していることの問題点——地域での理解が得られず、交流が困難である。

○ 中学校に進学、また卒業後の問題点——小学校に特殊学級はあるが、中学校には受け入れ体制がない。卒業後も企業や社会の理解が得にくい。

○ 特殊学級運営費の問題点——人数が少なく、学級運営が困難な状況にある。

の実践などが話された。

② 健全育成についてはいわきの三校合同による各種行事の実践や提言者の各校の実線が話された。

最後に、助言者の松本・渡部両先生より。

① 幼小中高の縦のつながりでの行事を持つなどして子供達に様々な体験をさせることが大切である。

② 健全育成の原点は家庭教育である。睡眠など家庭の教育力を高めるためのPTA活動が望まれる。家庭、学校、地域、社会が一体となって子供の心を育て、子供達を健康やかに育てていきたい。などの助言を頂いた。

◎ 助言者より

○ 学級間の交流が大事。

○ 障害児教育とはどういう教育か、障害とはどんな障害か、どう対応したらよいか等の基礎知識が必要である。

○ 障害を個性として考え学校全体、社会全体で足りない所を補う。

○ 障害児をもった親自らも社会の中に積極的に入っていく、視野を広げる必要がある。

○ 学校・地域等日常生活の中で特殊教育を行い、社会の中で子供達の力を発揮させる必要がある。



記念講演

心・技・体

不撓不屈の 土俵人生にける愛

やぐら太鼓がなりわたる中、九重親方ときき手の向坂氏が登壇し、なごやかな対話の中で進められた。

故郷福島町は、今は九千人弱の町であるが二人の横綱千代の富士と千代の山の誕生した所である。昭和四十五年八月二十五日、相撲界に入門する。

その経緯は、中学三年の二学期に突然相撲へとスカウトされたが、断小千代の山のさそいにも、断つたもの。「どうだ。東京へ行かないか。」

の誘いに付いて、東京に出でてしまったのが、相撲界へ入ることとなつてしまった。

当時の新弟子検査は身長百七十七センチ、体重七十キロである。体重が二十キロ足りない。食べるけいこ。当日は食事をつめ込んでやつの思いで新弟子検査に合格した。

現役中、苦勞したとは思えない。楽しいことが



たくさんある。ただ、素直な気持ち、しつかりした態度ですぐ実行。曙にしてみても、まったく相撲の知らないところに来ても横綱になれる。素直な気持ち、やる気だがんばれば誰でも横綱になれる。五十四年春の右肩脱臼は力士生活終わりを思わせるけがだった。脱臼しやすい肩の構造と診断。治療をしながら脱臼しない肩作りを目指して努力する。それには一日五百回の腕立てふせを続けていくことで、肩の筋肉によろいをつける。

大変な忍耐と努力を必要だった。又脱臼を完全に防ぐ正攻法の相撲を目指し、相撲の型を変える。最も苦手とする琴風を相手に自分の相撲の型を完成する。翌年の琴風戦では、目標とした寄り切りで勝ち取り、初の優勝を手にした。ウルフ時代の到来だった。五十六年名古屋場所は横綱への期待のかかった大変な人気の場所だった。初日、隆の里戦は黒星。勝つんだという焦りで、自分を見失なったものだった。録画を見て、反省し、自分の相撲を取り続け優勝した。第五十八代横綱の誕生の時である。故郷に錦を飾る地方巡業の三日目の仙台場所です首捻挫。治療しながらの巡業だった。思いのほか悪かった。思ったようないけいこもできず不安のまま、場所を迎えた。初日は辛じて勝つたものの、こんな相撲で大丈夫かと思つた。二日目、隆の里右四つ下手ひねり足をねじつて即入院する。前向きに考え、今何をすべきか、何ができるかを思つた。足のけがを治

すこと、テレビで相手の研究することができた。五十六年九州場所は、毎日が不安ばかりだった。それでも、十四日には、十一勝三敗で、琴風、朝汐と三人が並んだ。琴風にあびせたおしで、朝夕にはすくい投げで勝つことができた。けがでの逆転優勝だっただけに、涙ながらも勝ち取った。ともよい大きな一勝だった。五十九年は、股関節剥離骨折、側湾症で優勝から遠ざかる。五十九年秋場所、小錦につき出で負けた。思つてた以上に力があつた。心を新たに小錦の所に出けいこ。半月もしい内に自分のものとした。六十年小錦に勝つた。やればできるといふことを相撲で教わつた人生。自分なりの目標を立て到達しようとして努力し練習。目標に向かって頑張つた。

大会事務局から

したが、2日間素晴らし好天に恵まれ、県内各地から二千名を超す会員の参加を得て盛会裡に終了できましたことを本当に嬉しく思います。本大会の開催については、いくつかの課題がありました。PTA連合会事務局の温かいご指導やご参加の会員のご理解とご協力により、何とか課題を解決し終了することができました。厚く御礼申し上げます。また市内12校の単Pの会員には、それぞれ分担の仕事を通して熱意あふれるご協力をいただき、感謝しております。本大会のために努力したことは、記念講演の講師の件でしたが、幸いにも九重親方を迎えることができ、市内の会員も含めて四千余名に聴講していただいたことに大変満足しています。この大会開催を通して市連Pとして数多くのことを体験し学びました。そして組織力と実践力も強化できました。この教訓を今後の市連Pの充実発展に生かしていきたいと思ひます。

- 最後に、次年度開催の須賀川大会のご盛会と県内各単Pのご発展をご祈念申し上げます。
(事務局長 佐藤)
- 地区連Pの組織・運営についての調査**
- 今年度第一回の理事会において、地区連Pの在り方について情報を交換し改善を図りたいとのことでアンケートを実施しました。調査結果の一部お知らせします。
- 対象 県下19地区会
 - 期日 平成五年九月
 - () 数 ↓ 地区数
- 1 総 会
 - 年一回(17)5月(16)・6月(1)
 - 年二回(2)10月、5月、2月
 - 2 参加者
 - 代表委員(18)
 - ・ 校長単P会長(9)
 - ・ 校長単P長・副(2)
 - ・ 単P役員5人×2人(5)
 - 3 出席率
 - 100%(9)
 - 0399 > 85%(5) > 84 > 55%(3)
 - 1%(1) ↓ 全会員出席
 - 4 会長選出
 - 方部・町村代表会長のローテーション(16)
 - 方部大規模校ローテーション(1)
 - 一定校会長(1)

県P原町大会に 参加して

東白川郡PTA連合会長
鈴木壮一

第四十二回県PTA研究大会原町大会が、盛会のうち、相馬野馬追旗が今大会を盛り上げる中で終了出来ましたこと、役員の方々はもとより参加した皆様方と共に喜びたいと思います。

第一日目は、各方部に分かれ分科会方式により研究討議されました。私の参加した

分科会は、組織運営を研究視点と

PTA研究大会に出席して

えるをテーマに、学校週五日制(学

全国・山形大会

白河一小PTA会長
安田好伸

して活発な討議がなされました。また、他の分科会に参加した会員からの報告を聞きそれぞれの単位PTAにおいても種々問題を抱え、それらを克服しながら子供たちの幸せのために努力していることが実感として伝わってきました。

そして、この大会に参加することにより視野を広げ、それら研究討議をした中から得たものを、今後活動の中に一つでも取り入れることが出来

ば意義ある大会であったということが出来ると思えます。

また、そうあるべく、努力していかねければならないと、認識を新たにしましたところでありませう。

今日、学校週休二日制が実施に入るなど学校教育制度も大きく変わってきました。また社会情勢も大きく変わろうとしている中において、私達親も常にあらゆる機会を通じて学習すべきことを、痛感したところでありませう。

特別分科会での「新しい学力観を考

える」をテーマに、学校週五日制(学

校外活動)の実施に伴う地域の教育力についての意見交換が活発に行われたことが、今大会の特筆すべき点です。

第四十一回日本PTA全国研究大会は、全国から七千五百名の参加者を集め、八月二十日・二十一日の両日、山形市で開催されました。

催されました。そして、この大会に参加することにより視野を大きく広げ、それら研究討議をした中から得たものを、今後活動の中に一つでも取り入れることが出来

一、心豊かなたくましい子どもを育むPTA活動を進めよう。

二、親も教師も共に学び合うPTA活動を盛り上げよう。

三、家庭・学校・地域の連携をつくりだすPTA活動に広げよう。

四、日本を愛し、世界に貢献する子どもを育てるPTA活動に高めよう。

一日目は十一の会場に分かれた分科会であり、特別分科会での「新しい学力観を考

える」をテーマに、学校週五日制(学

校外活動)の実施に伴う地域の教育力についての意見交換が活発に行われたことが、今大会の特筆すべき点です。

これからの教育は、良い学校に入り、良い就職をして終わりというのではなく、長いトレンドでものを考えていかなければ、今を生きる子どもたちに未来はないのです。二日目の全体会では、赤松文部大臣の祝辞と、西澤潤一東北大総長の記念講演が印象的でした。

日中友好「少年の翼」 に参加して

川内村立川内中学校
佐久間理恵

三月二十七日から三十一日までの一週間「第八回日中友好少年少女の翼」に参加しました。日本PTAの主催で全国から百十六名が参加しました。あつという間の一週間でした。初対面の人と六日間うまく過ごすことができると心配しましたが、その心配もなく、すぐにうちとけあうことができました。

三月二十七日に到着。これまでは、目と耳だけで中国という国を理解していましたが、この旅行をきっかけに全身で中国とはどういう国か改めて知ることができました。

数々の名所を訪問しましたが、印象に残っているのは、北京師範大学第二附属中学校を訪問したこと

です。門を入ると、生徒達が両端に並んでいて、拍手で私達をむかえてくれました。そして、昼食を一緒に食べました。この中学生達も英語を勉強しているそうです。私達と

話す時は英語で話してくれました。しかし、英語があまり聞きとれない私達にとって、言っていることを全部理解することは困難なことでした。そして、英語が話せない自分を恥ずかしく思い、知っている限りの単語とゼスチャーで自分の気持ちを伝えるのに、一生懸命、努力しました。なんとか通じたけれど、こんな私達に中国の生徒達は親切にしてくれました。いつも笑顔で話を聞いてくれ、私達が言っている事がわかると一緒に笑ったこともありました。その時、言葉が違っていても心が通い合える友達が出来たことに、とても感動しました。戦争当時の残酷な話を思い出し、不安もありましたが、そんなことはなかったかのように、接してくれました。中国という国は面積が広いだけでなく、心も何もかも広いのだなと感心しました。

この旅行で、五人、中国の友達が出来ました。このことをきっかけに、お互いの情報などを交換しあいながら、交流を深

5 副会長

○会長を除いた方部代表会長

○ローテーションによる次期会長 他

6 事務局員

○会長と同校校長(7) ○会長と異なる校長

7 事務局員

○事務局長と同校職員・PTA役員(19)

8 児童一人当り徴収(18)

○円 60・55・35・34・20・17・各(1) (4)・40(2)・30(2)・25(3)

9 単P負担等(1)

○千・百・百・各(1)・24(3)・15(2) ○1,5千(2)・2,7万2校で、一学級20(1) ○一会員40円(1)

10 市町村による補助(9)

○30万・22万・20万・18.5万・10万・7万各(1) ○15万(3)

※特別な事業に両徴収
長かったようで短かったこの六日間、みんなと楽しい日々を過ごし、たくさんのお出でをありがとうございました。こんな貴重な体験をさせてくれた、両親やPTAの方々にとても感謝しています。この旅行で学んだことを役立て、新しい自分を発見できたと思います。

『地域の特色を いかした』PTA活動

二本松市立杉田小学校
PTA会長 安田 孝

本校は、二本松市の南に位置し、東に阿武隈川が流れ、西に安達太良山を一望、それからの清流杉田川を目の前にし、JR杉田駅を近く背にし、交通にも自然環境にも恵まれた学校である。

創立は明治六年、今年百二十周年を迎えた。現在児童数は三百八十名、会員二百六十九名である。



(子どもたちにもちつき体験を)

役員構成は、三役六名、七つの方部委員十五名、研修・厚生・保健・校外補導・環境整備・給食の六つの専門委員会から成っている。

各役員の選考は、各地方部の代表により決定し、各委員会が責任を持って企画・運営と、活発で楽しい活動が展開されている。平成四年度より、各委員会に協力できる学年委員を新設した。同時に、各学年単位で年一回の行事を、子供・先生・親が知恵を出し合って計画し、楽しいふれ合いの会を実施している。

本校では、地域の方々の田畑を借りて、各地方部老人会の指導を受けて、田植え、稲刈り、もちつき大会を行っている。

もちつき大会は、毎年十二月に、最近では数少なくなつた貴重なうすきねを地域の家庭から借り受け、昔ながらのもち

つきを、全児童参加のもと行っている。その年により変わるが、二俵から四俵のもち米は、前日そして当日早朝より準備をしなければならぬし、凶作の今年は、二俵のもち米収穫はむずかしいので、不足分は地域のの人に、今から協力を得ているところである。

もちつき大会には、一年間お世話になつた方々を招待し、民謡等を聞きながら、児童と共に収穫を祝い、子供の楽しい思い出となつている。

平成三年度より、地域が主催するフットボール大会にPTAチームで参加し、会員以外の地域の方々と先生方と一緒に親睦を深めている。

今後も、子供のため、自分達のため、多くのふれ合いの場を通して、全会員が一体となつて、楽しい汗を流し続けられることを願っている。

特色あるPTA活動

本校は副会長が四人制であるのが統合時からの伝統となつている。四人制のメリットとして①役員会等において各地区

形をとつている。

の選出は五地区の輪番制が慣例となつており、会長一名、副会長一名、専門委員長一名が各地区委員会へ選出され、総会において承認する、という形をとつている。

の情報は速やかに収集出来、運営に生かせる。②五つの専門委員会の開催時にはそれぞれ分担任して参加することが出来るので専門委員会と本部とのパイプ役となる。③各地区PTA活動の中心的役割を果たし地区委員活動(給食費の徴収)のまとめ役、方部教育懇談会の世話、総会前の地

『特色ある PTA組織と活動』

郡山市立湖南中学校
PTA会長 鈴木 和夫

本校は、昭和五十年五十一年に渡り五つの地区、四つの中学校が統合して出来た学校で今年で十九年目を迎えた。広い学区を持つ中学校です。PTA役員は、会長一名、副会長四名、監査三名、各地区委員十七名、専門委員長五名、学年委員三名、となつている。役員

の選出は五地区の輪番制が慣例となつており、会長一名、副会長一名、専門委員長一名が各地区委員会へ選出され、総会において承認する、という形をとつている。



(スキー場の下刈り作業をする三役環境整備委員)

区PTA集會及び役員選出の世話など、きめ細く出来る。以上をあげたが他にも会員の意識向上の為の研修会、会員相互の交流などあり、PTA活動を活発にする為の地区をまとめるという責任者としての役割が非常に大きい。

本校は郡山地区でただ一校スキーが出来る学校です。環境整備委員会が中心となり年一回のスキー場の下刈り作業を実施しており、少しづつ整備も進んで来ています。又近くには猪苗代湖があり、夏には湖水浴の人で大変賑わいます。その為水難防止や非行補導が実施され、補導委員会がそれに当たっています。これに関しては中学校だけでなく湖南地区の五つの小学校と協力し合つて実施しております。

他にも紹介したいのですがここでは主なものを紹介して終りたいと思います。



『より健全な活動をめざして』

古殿町立古殿中学校PTA

本校は、須賀川市よりいわき市へ向かう石川町といわき市の中間、また国道三四九号線を小野町に向かう左側、山と緑に囲まれたところにあります。昭和五十年竹貫中学校と宮本中学校が統合し現在の古殿中学校になりました。県内では数少ない、通年の寄宿舎もあります。



(親・子力を合せ 愛校作業)

生徒、家庭、学校及び地域社会の必要や期待に応えるPTAとして、その活動の改善、充実を図ることを基本方針として、本年度の重点実践事項は

- 一、会員研修の積極的な推進
- 二、父母と教師の連携による生徒指導の推進
- 三、学校の環境整備への協力
- 四、会員及び生徒の福利厚生者の推進

教養委員会、生活指導委員会、環境整備委員会、厚生委員会の四委員会の構成のもとに活動をしていきます。活動の内容としては、教養委員会の会報「やまなみ」の発行と研修旅行。特に研修旅行は生の芸術を鑑賞しようというところで、今年には郡山市民文化センターでの「裸の大將」放浪記を鑑賞いたしました。生活指導委員会では、研究公開への協力と学校祭への協力(バ

ザー・食堂の開設)。環境整備委員会では、研究公開への協力と親子奉仕作業の実施。面積三万八千三百八十八、上手の草刈り作業は全会員の九割を超す父母と草刈り機三十数台と三二七名の生徒達が委員長の手指示のもと、数時間の内に見違えるようにきれいになりました。厚生委員会では寄宿舎を励ます会と生徒会の資源回収の協力。寄宿舎生を励ます会ではPTA役員と寄宿舎父母が寄宿舎とバレーボールをします。その後焼肉パーティーで懇談し激励をします。又資源回収では町内十区より父兄の自動車の協力により運び込まれるビール瓶等は、みるみるうちに山と積まれ、収益金は生徒会の活動資金となります。

子供達の健全な成長を願い、全会員が活動を展開してまいります。

特色あるPTA活動

ことを目的とし、様々な活動を推進しています。ここに特色ある活動の一端を紹介いたします。

◇姉妹校交流||白河藩

『心豊かなふれあいのあるPTA活動の推進』

白河市立白河第三小学校父母と教師の会

本校は、みちのくの玄関口・白河市の中心部に位置し、創立八二周年を迎えた、児童数八八〇名、会員数六三五名の学校です。

現在、昭和三五年に造られた木造校舎と別れ、近代的な新校舎へ改築の最中です。広い校庭、体育館、そして、屋上にプールのある校舎の完成を会員一同心待ちにしております。

白河第三小学校父母と教師の会は、会員相互の親睦を図るとともに、教養を高め、心豊かな子どもを育てることを目的とし、様々な活動を推進しています。



(いねかり体験)

主松平定信公の菩提所である靈巖寺を学区に持つ東京都江東区立白河小学校と本校は昭和五五年姉妹校を結びました。それ以来、作品交換やホームステイ等の人的交流が盛んに行なわれています。

今年度は、春・秋の二度稲作体験を通して交流を深めました。

◇広報活動||年三回P

TA会報「白三だより」を発行しています。会の活動や学校行事等を熱心に取材し、丁寧な紙面づくりに努めているため、会員はもとより地域の皆様にも好評を得ています。

◇古紙回収||毎月、古新聞等の回収をし、利益は児童の図書購入にあてています。

◇PTAバザー||会員や地域住民が楽しみにしている行事です。収益は教育環境の整備・充実にPTA活動の活性化を図るために有効に利用されています。

◇親子レク||学年・学級PTAが趣向を凝らした行事(ミニ運動会、親子宿泊、親子料理教室、親子ハイキングなど)を開催し、子どもとの活動を通して会員相互のふれあいを深めています。

今年度は県PTA優良団体として表彰を受け、喜んでいましたところ東北連Pの表彰も受けることになりました。

今後、会員一同さらに協力し合い、地域に根ざしたPTA活動を推進して行くように努力していきたいと思っております。



『真剣さの中にユーモアが、 笑いの中に厳しさがある。』

福島県立会津養護学校PTA

十月十七日、プレールームに、呼び込みの音が響いた。

お母さんたちのかん高い声、それに負けじと一段と大きな高等部の生徒たちの声。

「いらっしやい、いらっしやい。安いよ、安いよ。」
プレールームは、父兄や、生徒たち、その兄弟、先生方で熱気むんむん。恒例のバザーである。



(達人の味つけで食べる芋煮会)

会津養護学校は創立四年。バザーは、学校の設備充実、児童生徒がより楽しく学校生活を送ることが出来る様なものを購入することを目的として、二年目から始まった。今年、県の委託を受けて行われた『いききふれあいフェスティバル』の終了日に開かれた。フェスティバルは学校行事として行なわれ、二日間で八百人以上の地域の人々が訪れた。養護教育に深い関心と理解を示していただいたように思う。

結力は強く、活動に対しても積極的だ。普通学校で苦慮する役員選出も、毎年二十分内外で終わる。先生方も意欲的で、役員会でも活発に発言され、毎回、健康的な議論が展開する。そんな話し合いの中で今年、学友部会が発足した。各学部ごとの父兄の親交を深める為だ。初の試みとして親子レクリエーションが組み入れられた。会員の中には、一芸に秀でた人も多い。毎年行なわれる芋煮会でも、達人の味つけで食べる芋煮は絶品だ。先生方も父兄も個性を生かして参加するPTA活動は、ユニークでおもしろい。子どもたちのハンディにもかかわらず、明るく楽しくバイタリティあふれるPTAを、私たちは大いに自負している。

特色あるPTA活動

目標に掲げ、どのような活動を行ってきたかは、学校沿革誌やPTA会報等の資料から知り得るが、中でも特色あるPTA活



『PTA基金と PTA活動の推進』

河東町立河東第二小学校PTA

北に秀峰会津磐梯山、東に猪苗代湖、南西に会津盆地を望み、四季折々の装いを見せる美しい自然に囲まれ、百二十年の永き歴史と伝統を誇る本校に今日も百十五名の児童が元気に登校してくる。

PTAの遠隔をたどれば昭和二十三年「学校後援会を解散し、日橋村立日橋第二小・中学校父母と教師の会を結成する」とあり、PTAの歴史も四十五年を数える。

組織が発足してから今日までの間、本校PTAが何を

動に関することといえば「PTA基金の有効な活用とPTA活動」が特筆できるものである。資料によれば、昭和四十九年度に学校林が売却され、売却元金及びその利子を以ってPTA基金が設けられた。

以後、この基金を有効に活用するPTA活動の在り方について話し合い

が行われ「環境が人をつくる」との考え方から



(基金と奉仕活動による学校庭園の造成)

が行われ「環境が人をつくる」との考え方から

- ◎ 学校庭園造成
- ◎ アスレチック設置
- ◎ 校旗新調
- ◎ 絵画購入
- ◎ ブロンズ像建立
- ◎ 児童文集発行

など、校舎内外の教育環境整備を中心に児童活動に対する援助も行っている。

活動にあたっては、PTA基金から予算面での補助を行うことはもちろん、実施にかかわる計画作成や勤務奉仕活動などを積極的にに行い、会員全員参加によるPTA活動を目ざしている。

今後は、今までの活動の成果をふまえながら、学校内外の環境整備をすることだけにとどまらず、PTA会員一人一人が、生涯にわたって自ら学ぼうとする学習意欲を高めるため、基金の有効活用とPTA活動の在り方についてその方向性を研究していく必要があると考えている。



『文化部を中心に 会員主体のPTA活動』

いわき市立小名浜東小学校PTA

「港は結ぶ・世界の国と」校歌の一節です。本校は国際港小名浜の東北部に位置し、太平洋が一望できる三崎公園や小名浜漁港が学区の中にあります。商港としての小名浜港も年々、国際港として重要な役割を果たしています。

昭和三十四年、小名浜第一小学校から分離独立し、小名浜東小学校として誕生しました。歴史的にみれば、まだ三十五才ぐらいの若い学校です。現在の校舎は昭和六十二年から平成元年に渡り改築され、オープンスペースを有したモダンな三階建てです。

各学年は三クラスで一つの大きな教室となっており、各クラスのスペースのほか、三クラス合わせたものと同じ広さの共通空間が設けられており、学年ごとに工夫を凝らした利用が行われています。



(国際交流の算数の授業)

近年、団地造成や工場移転等、地域の変化により、児童数、PTA会員数も増加し、改築されたばかりの校舎でも、なお手狭さを感じ、プレハブ校舎も増築されました。私たちのPTA各委員会では文化部の活動にユニークなものがあります。

文化部では、去る六月二十九日、本校五年生児童と国際生活体験協会の学生との交流を実現させました。これはいわき市内でホームステイするため来日した米国の高校生十二名が日本の小学校を見学したい希望であることを知り企画したものです。

特色あるPTA活動

『相馬』

『学校・家庭・地域ぐるみの 協力推進』

相馬市立福浦小学校PTA

本校は相馬郡の南端、小高町の東南部を学区とする児童数二八九名、P会員二一九名、T会員二一名のPTAです。

小高町は、旧藩主相馬氏が元亨三年に奥州下向した際、本拠地としたところで名所、史跡が数多くあり、小高町振興計画でも、「香り高い歴史と文化の町づくり」を提唱しております。

現在、人口約一万五千人ですが町内には県立高校二校、統合中学校一校、小学校四校があります。

本会の大きな行事の一つに親子納涼盆踊り大会がありますので紹介します。本校は昭和五六年に校舎が新築されました。



(手づくりお面で楽しくおどる親子盆踊り)

おはやしも会員、唄も会員、模擬店も会員、売っているものも会員の手作りです。お面約三百枚も完売でしたし、売店の売上げ金約三五万円、本会の事業収益金約十七万円と大変盛況でした。児童会の収益は児童会の、本会の収益は本会の活動資金としてそれぞれ利用されます。

装がエスカレートして保護者の介入が多くなった事、仮装がハデになると身の自由がきかず踊りづらい等のことから今年は「お面」盆踊りとしました。つまり児童会で一人二枚のお面を作り、(創意工夫が凝ってある)一枚は本人用、もう一枚は当日保護者に売るものです。お面にしたのはその他にも理由があります。大人の踊り参加が少なかったのも、お面で顔をかくすとはづかしさがないので大勢参加するのではないかと意見が出されたのです。言うまでもなく予想は的中でした。

大変楽しい親子盆踊りです。今後も工夫を重ねて永く続けて行きたいと思えます。

県PTA安全互助会だより

「賠償責任補償」

豆 知 識

平成三年度より学童の「賠償責任補償」を付加したコースが設定され、補償請求件数も多くなっておりますこと、安全互助への関心の高まりと喜んでおります。

その中で、賠償責任補償と障害補償との違いについて理解されていない実態もみられますので、二、三それらについてふれてみたいと思います。

まず第一に「被害者より請求があり加害者が過失を認めるとき補償関係が生じる」ということです。

・遊んでいて隣家のガラスを割った場合、被害者が、「いいですよ」となれば賠償責任は成立しません。(加害者のお詫びとは性格が違う)

第二に「時価相当額あるいは事故前の状態にもどすのに必要な修理費」が補償額の範囲です。

・したがって、他の損害賠償保険に入っている場合、そちらの補償と合算で時価相当額を補償することになります。

カーボールがあたつてガラスが破損した場合、被害者にも過失があつたものと考えられ、査定により減額補償となります。

これは、一般の交通傷害賠償補償の「横断歩道上の事故」と「横断歩道外の事故」の賠償責任補償の違いと同じような考え方です。

今回は、以上三点についてふれましたが、そのほか問い合わせの多い事例に、「PTAバレーボール中の眼鏡の破損」ですが、これはお互いに危険を承知の上で、試合・練習していると考えられ、通常、損害賠償補償対象となりません。

勿論、観客の眼鏡の破損は、この限りではありません。

今後もおりにふれ事例等の紹介をしていきたいと思ひます。最後に十月末現在の賠償請求件数を紹介いたします。(平成五年一月〜十月)

学童	二五件(平成四年八件)
PTA	一二件(平成四年一件)

第四回

子ども国際レンボー便

学用品の寄贈を通じて子ども達が国際協力・理解を体験し、さらに国際交流の途〇〇〇試みであり、さらには外国の識学運動にも協力する結果となるなど、子ども達に有形無形の教育効果をもたらすものとして、日本PTA全国協会が、国際ケア機構と協力して推進するものです。

今年、本県で参加する学校は次の通りです。

福島市蓬萊東小学校
福島市野田小学校
二本松市第一中学校
飯野町青木小学校
(飯野町五校とりまとめ)
保原町保原小学校



(みんなであげよう)

郡山市行健小学校
会津若松市東山小学校
都路村古道小学校
白河市白河第二小学校
下郷町下郷中学校
いわき市中央台中学校

※前年度参加
全国二一八校、本県八校

第17回子どもの災害事故防止習字・ポスター募集

今年も、子どもの災害事故防止習字とポスターを募集します。多数の応募を期待しております。

▼対象
福島県内小・中学生

▼応募規定
募集要項参照
(十一月配布)

▼応募締切
平成六年一月三十一日

▼提出先
福島県PTA連合会
福島市黒岩字田部屋
五三一五 一九六〇

第29回「福島県小・中学校新聞コンクール」のご案内

▼対象
県下小・中学校の新聞または、PTAで発行す

る新聞で、本年一月以降発行したもの。

▼応募方法
発行回数ごとに各一部を平成五年十二月十五日まで、一九六〇 福島市柳町四一二九 福島民友新聞社会事業部「新聞コンクール」へ送ってください。

▼表彰
学校新聞の部、PTA新聞の部別に審査し、表彰いたします。

※PTA新聞の優秀作品は、「全国小中学校PTA広報紙コンクール」に出品します。

編集後記

▼県P原町大会は、天候にも恵まれ、大会事務局の綿密な計画と用意周到な準備、そして、実行委員各位の献身的な働きにより多大な成果をおさめ終了したことに對し敬意を表します。

▼本会報のため多くの原稿・写真を届け下さった大会事務局、そして、多忙な皆様方からの原稿等の送付に深く感謝します。

▼会報をお届けいたしました。単P活動にお役立下されれば幸いです。